



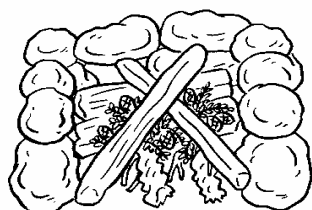
川原ですい事をするときの、火の起こし方を教えて

用意するもの

- ・マッチ...ぬれないように、ビニルぶくろなどに、入れておきましょう。
- ・新聞紙...軽くねじって使います。雑誌や包そう紙を、かわりにしてもよいです。
- ・小枝.....落ちているマツやスギのかれ枝、まつぼっくりなどが、よくもえます。
- ・たき木...キャンプ場でも売っていますが、流木などをひろって使ってもよいです。

石組み式かまどするとき

軽くねじった新聞紙を、2～3本いちばん下に置き、その上に、小枝を積み上げます。そして、その上に、たき木を2～3本のせます。



火がいきおいよくもえるようになつたら、おき火を作ります。おき火には、太いたき木を使い、火が大きくなつたら、たき木をくずして平らにします。



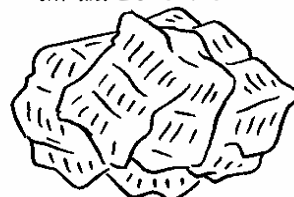
おき火は、熱が長時間安定しているので、料理をするのにてきしているのです。

注意：火を使うのは、必ず、大人の人がいるときにする。

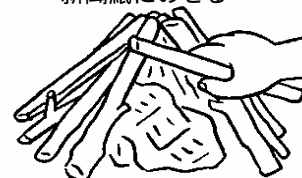
また、かぜの強い日には火をもやさないこと。安全のために、水を入れたバケツを、そばに用意しておくこと。

かまどを作らないとき

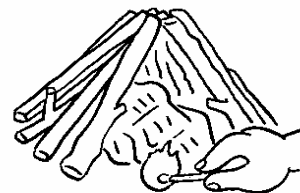
新聞紙をまるめる



細い木から順に、新聞紙にのせる



新聞紙の、いちばん下に、火をつける



(監修・青木 国夫)

